

地域行政の推進に関する条例の検討状況について

1 主旨

地域行政の推進に関する条例の検討における取組みとして、これからの地域コミュニティとまちづくりを考えるシンポジウム他を開催したので報告する。

2 事業概要

(1) 日 時 令和2年10月17日(土)

①シンポジウム 13時から15時20分まで

②ワークショップ 15時30分から17時30分まで

(2) 会 場 世田谷区民会館ホール(新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を図り開催)

(3) 参加者

①シンポジウム 118名(区のお知らせ、ホームページ等で募集)

②ワークショップ 31名(無作為抽出方式により募集)

3 テーマ

「これからの地域コミュニティとまちづくりを考える」

4 内容

(1) シンポジウム

①基調講演

講 師 森岡 清志 氏(放送大学特任教授、世田谷区地域行政検討委員会委員長)

テーマ 「コミュニティと地域行政」

(主な内容)

- ・コミュニティには親交型と自治型がある。
- ・都市生活においては行政や民間サービスが拡大し、住民間のコミュニティが必要不可欠ではなくなったが、行政のサービス対象は住民であり、その意思を自治型コミュニティに組み込ませることが必要である。
- ・意思決定過程に住民が関与できる場を地区、地域ごとの設け、分権化を進めることが重要であり、特にまちづくりセンターのマッチング機能を強化させる必要がある。

②パネルディスカッション(別紙1のとおり)

パネリスト

森岡 清志 氏(放送大学特任教授)

名和田 是彦 氏(法政大学法学部教授)

矢島 嗣久 氏(世田谷区町会総連合会副会長)

宮地 成子 氏(地域の絆連携活性化事業まちづくりアドバイザー)

保坂区長(コーディネーター兼パネリスト)

(2) ワークショップ

参加者を7グループに分け、各グループにファシリテーターを置きグループワークを行った。(別紙2のとおり)

5 その他

当日のシンポジウムの様子はYouTubeの世田谷区オフィシャルチャンネルにて、近日中に配信する。

パネルディスカッションでの主な意見(要旨)

◆テーマ

- ・地域コミュニティへの参加促進、地域コミュニティの活動がつながるために
- ・まちづくりを推進するための地域コミュニティと行政の関係づくり

◆「地域コミュニティへの参加の促進」

- ・地域コミュニティの活性化にあたっては、「地域のためになることが気軽にできること」「若い世代を参加につなげる」が重要だと考える。
- ・他人であっても、最低限の信頼感を持ってフランクに話し合う気風がなくなり、仲間内しか信用しないからコミュニティが縮小していく。仲間がいないと活動できないが、組織の外の様々な人と交流する場や気風が必要だと感じる。
- ・ドイツの都市内分権は巨大化した都市のもとで、住民の声を行政に反映させる機能で、区においても、地区・地域を中心とした住民参加の構造をしっかりとつくっていくということが必要だと思う。
- ・年度末の町会内の班長交代の引き継ぎは、これまで回覧板での質疑で済ませていたが、新旧班長の親睦を図る会合を持ち、グループ討議をしてもらった。最初は批判もあったが、情報交換や今後の目標、反省など話し合いが活発になり、今では集まるのが楽しいと言っていただけ。
- ・塚戸小学校を中心としたパトロール活動「T・A・P」では、「できるときに・できることを・できる範囲で」をモットーにしている。また、ある共生の家の運営では、ホームページやイラスト作成など若い人の感性を生かして作成し発信している。
- ・地域コミュニティに関する研究では、どういうタイプの人が地域参加しやすいかという、時間的資源と経済的資源があること、次にやる気とか意欲。最後は地域情報を持つ人たちとのネットワークを持っているかが一番重要。例えば、PTA 役員が辞める際に、地域の方が地域活動へ誘う仕掛けがあってもいい。
- ・高齢者対応や防災、防犯などは関心が高い。窃盗犯は犯行場所を何度も下見し、まちの雰囲気意識していると聞いたことがある。まちの治安や防犯というのは、まち全体の雰囲気が大事だと学んだ。
- ・特に高齢男性の孤立は深刻な問題。誰とも口を聞かないで何日も過ごしている方もいるので対応が必要だ。
- ・町会において、小学校の下校時に、地域を歩いて回る防犯パトロールに参加を呼びかけ、男性の参加者からは歩きながら、いろんな話ができるが楽しいとの感想をいただいている。
- ・社会福祉協議会のサロンの一つに「男の台所」がある。料理をつくることだけではなく、情報交換をする場として、今では参加者が 200 人を超えている。
- ・行政は「協働」という言葉で、住民に実働を求めていることには賛否がある。地域包括ケアにおいて、福祉的なサービスに行政と住民が「協働」することにより、様々なサービスを地域で提供している社会、生き生きとした社会を目指すということであれば「協働」ということには意味がある。

- ・防犯パトロールのような活動のなかで孤立が解消し、生き生きとした地域コミュニティが復活されるような実働であれば、非常にいいと思う。こういう活動が地区ごとに、励ましあいながら取り組めるしくみができるといい。

◆「地域コミュニティの活動がつながるために」

- ・コミュニティやその活動が相互に繋がることで、互いの活動への理解や協力、人材の交流、イベントの規模拡大により多くの方々に参加してもらうことなど、地域がより活性化するのではないかと思う。
- ・秋祭りに続けて、地元中学校の吹奏楽団と地区の合唱団に出演をお願いして「鎮守の森コンサート」を始めた。ここからさらに発展して、春には、近隣の教会や寺院、小学校といった多様な関係者をつないで、「代沢芸術祭」を始め、今では大変大きなイベントに発展した。
- ・「烏山ネット・わあ〜く・ショップ」では行政と市民、事業者の3者が話し合う場に位置付けている。また、駒澤大学グランド前バス停の改修では、改修前では車椅子利用者が乗り降りできず、駒沢大学や行政等の協力を得て改修ができた。地域コミュニティ活動の継続や、いろんな人たちを巻き込むためには、成功体験を積み重ねていくことが大切だと思っている。
区だけでもできないことを何か体験したときに、みんなでやってよかったという雰囲気生まれ、区民はまちの事情を気軽に話すようになる。

◆「まちづくりを推進するための地域コミュニティと行政の関係づくり」

- ・コミュニティ組織の実働は大きく2つに分かれ、1つは伝統的に地域がやってきたイベントやまつり、もう1つは子どもの学習支援や子ども食堂、高齢者の見守り、サロン活動などの地域課題解決活動がある。これを地域住民にボランティアでやって欲しいと投げかけてきたが、限界がある。いずれも専門性が高く、地域の住民側にも行政や専門機関側にも、専門性を持った人材がいて、一緒に取り組むしくみがまちづくりセンターに必要だと考える。
- ・特に生活支援コーディネーターの役割に期待している。世田谷は地域包括センターとまちづくりセンターが一体整備されている体制に期待が持てる。日本では生活支援コーディネーターのスキルや専門性がまだあきらかになっていないが、実践の中で区民とともに、新しいコミュニティ像をつくっていくことを期待している。

ワークショップ「これからの地域コミュニティとまちづくり」

- 1 日時 令和2年10月17日(土) 15時30分から17時30分
- 2 参加者 無作為抽出による住民等31名

内訳	10代・20代	7名
	30代・40代	6名
	50代以上	18名
- 3 進行 場所づくり研究所 (有)プレイス 宮地成子氏
及びファシリテーター7名
- 4 内容
 - Step 1 あなたの地域コミュニティで「顔見知りの人」はいますか？
地域コミュニティがあることで、できること
「まちの情報を知る」「身近な困りごとを相談する」
「いざという時に助け合う」「楽しいことをする」
 - Step 2 「あったらいいな」アイデアを膨らませてください。
「この人とこんなことができたらいいな」
「ここがこんな場所になったらいいな」
アイデアを実現するために、自分ができること、区の役割を考えてください
 - Step 3 発表
- 5 主な意見
 - (1) まちの情報を得るために
 - ・まちの情報はツイッターなどSNSで得ることが主流になっている。
 - ・身近な困りごとはネットで調べ、ママ友に相談する。
 - ・現役世代にまちに出て来てもらうためには情報が必要であるが、本当に身近なまちの情報はネットに出ていない。情報は「紙」「ネット」両方でスピーディに発信していければいいと思う。また、各自が地域の情報を得るためのアンテナを張る一方で自分たちの意見を言う場があるとよい。
 - (2) 知り合う、ゆるくつながるために
 - ・地域の人と世間話がしづらい状況である。「飲み歩きマップ」や「話しかけてもいいよ、ステッカー」のようなものを活用して新しいコミュニティがつけられるきっかけになればいい。
 - ・何もしなくても立ち寄れる場所がもっとできるとよい。毎日何かやっているカフェのような場所があると、知り合い、ゆるくつながるきっかけになる。空き家が活用できるといい。
 - ・男性はきっかけがないと孤立しがちである。オンラインゲームや読書会、将棋大会など多世代が比較的できるものの情報をデジタル化して誰でも見られるようにする。また、高校生が講師になって高齢者がスマホの使い方を習うというのもよい。
 - ・けやきネット団体のサークル案内だけではなく、もっと気楽に活動が始められるしくみがあればよい。

- ・いざという時は近所の人とあいさつをする関係にあるので助け合う。一人暮らしの人はコンビニ店員といつも顔を合わせているのでつながっている。
- ・便利な世の中になっているため、人とのつながりを積極的には求めないというのは、一般的な意見ではないか。

(3) 意見を言う、話し合うために

- ・魅力あるまちをつくるビジョンが必要。リモートでもいいので意見を出せる場がほしい。
- ・区民と職員が気軽にコミュニケーションをとれる場、要望の場ではなく楽しいことを話せる場があるといい。
- ・無作為抽出のこのような会はいいことなので続けてほしいが、いろいろな意見を聞くと、何を選択するのが大変である。

(4) 町会・自治会をおもしろい場、行きたくなる場にするために

- ・町会・自治会の情報をもっとオープンにして「見える化」し、町会・自治会で困っていることがもっとわかれば、周りに手をあげたり、興味をもったりしてくれる人がいるかもしれない。ちょっと興味ある人には情報が届いていない。住民と町会をつなぐために、行政が支援できないか。
- ・参加する側は、潜在的に地域・コミュニティに興味関心があっても、経済的・時間的・精神的に余裕がない。余裕のない状況も様々で0か100ではなく、ちょっとならできる、やりたい人もいる。そういう人と町会・自治会の間にコーディネーターがいてマッチングしてくれたらうまくつながっていくのではないか。